

組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名:

理学部

学域名:

環境生命自然科学学域(理)

部局長名:

市岡 優典

目標・取組	関連する 中期計画の番号	目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等		
<p>【課題1】学部入試志願倍率(前年度 前期日程 2.3倍)の向上 ・入試課の協力も得て入試の状況や対策の分析を行うとともに、理学分野を学ぶ魅力、在学生や卒業生の活躍などを高校生に知ってもらうため、オープンキャンパスの受入学生数を増やす、理学部案内冊子やホームページ等の内容を改善するなど入試広報を強化する。</p> <p>【課題2】理学部教育の魅力向上のための取組み(長期的な入試倍率2倍維持のため) ・教育ポリシー改訂、Target2025教育改革に伴うカリキュラム改善の立案、「理学系数理データサイエンスコース」の数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)申請等により、理学部教育の魅力向上のための教育改善を行う。 ・大学院入学定員充足率確保への貢献として、大学院進学率(前年度63%)の増加のため、学部3年生に大学院進学に関するキャリア展望ガイダンスを実施する。</p> <p>【課題3】海外学生派遣数(前年度1名)と外国人留学生受入数(前年度14名)の向上 ・コロナによって中断していた理学部の海外学生派遣プログラムを再開する。 ・海外協定校からの短期留学生受け入れ増を目指すとともに、私費外国人留学生入試等により、留学生受入数を確保する。</p> <p>【課題4】グローバル(国際・異/応用分野包括的・地域共創型)教育研究を海洋関連で推進 ・附属臨海実験所では、教育関係共同利用拠点「多様な生物・戦略による研究直結型教育のグローバル共同利用拠点」を活用し、学内外の臨海実習を従来のように行うだけでなく、DX等の環境を強化したCN等の研究直結型実習「先端統合生体制御学国際コース」等の大学院対象の異分野融合教育研究に取り組み、全国トップレベルの延べ5千人/年の共同利用を目標とする。</p>	<p>(2-2)</p> <p>(2-1) (3-1)</p> <p>(7-1)</p> <p>(1-2) (3-1) (7-1)</p>	<p>【課題1】・入試・高大接続部門と理学部の教職員の間で理学部の入試の状況や対策についての検討会を6月に開催した。推薦型入試の受験者増のため、総合問題(小論文)の過去問をホームページに公開することを始めた。オープンキャンパスの受入学生数を増やして実施。理学部案内冊子の内容を改善し、理学部紹介動画の改訂も行った。 ・結果として、昨年度は2.3倍であった前期日程の志願倍率が2.8倍に大きく向上した。</p> <p>【課題2】・理学部教育の魅力向上のため、教育ポリシー改訂とTarget2025教育改革に伴うカリキュラム改善の検討を進めている。 ・昨年度から開設した理学部共通科目と各学科専門科目で構成される「理学系数理データサイエンスコース」を受験生にも知らせるため理学部案内へ掲載を始めた。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)に申請し認定された。 ・3年生全員の履修授業の中で、博士後期課程の在學生と修了生の若手大学教員を講師に迎え、大学院での研究活動の魅力や博士人材のキャリアなどを知らせるガイダンスを実施した。なお、今年度卒業生の大学院進学率は約67%となった。</p> <p>【課題3】・学部生の海外派遣を再開し国立台湾大学へ5名派遣。正規留学生の他に、短期留学生は13名(学部2名、院11名)を受け入れた。私費外国人留学生入試志願者は22名で、GDP以外の本学学部の内最多であった。</p> <p>【課題4】・附属臨海実験所では、先端統合生体制御学国際コース(東京大学、ポローニヤ大学等と連携)、奈良女子大学の臨海実習等を、オンラインで実施した。また、同コースも含め、要である環境DNA実習を、DXの生物情報学等XRの環境強化により大々的に取り込むとともに、自走嵌合式AI海中ロボットの開発実習も行った。産業技術総合研究所 ERATOシンボも実施した。延べ7千人/年の利用であった。</p>
②研究領域		
研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等		
③社会貢献(診療を含む)領域		
社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等		
<p>【課題1】地域の高等学校理科教育への貢献の強化(長期的な入試倍率2倍維持のため) ・高校生の理科・数学の課題研究への指導や講評の機会に、これまで同様理学部教員が積極的に参画することに加え、高校理科部会総会の理学部での開催を復活させ、高校教員や教育委員会との意見交換の場を設ける。</p> <p>【課題2】第3年次編入学定員充足、科学技術イノベーション人材育成で地域との連携 ・高等専門学校の研究インターンシップ受入プログラムを理学部として開発して実施し、3名以上の受入を目指す。</p> <p>【課題3】岡山大学理学部の教育・研究の良さを社会に伝え理解を深めてもらう ・公開講座を2回、講演会(オンライン併用)を1回開催する。</p> <p>【課題4】異分野融合研究の地域共創DXリソース ・附属臨海実験所では、地域の海洋河川の生態系デジタル情報の環境DNAデータ(環境省生物多様性保全推進支援事業)等を含む生物材料、研究機器の学外利用等を推進する。これらを基に、特電委託グループ研究の連続獲得を目指す。</p> <p>【課題5】自治体、企業/経済界等との異職種ネットワークの構築と拠点としての実質化 ・附属臨海実験所では、瀬戸内市の臨海多様性プロジェクトリーダーが常駐する体制を開始し、地域をパートナーとした研究を発展させる。</p>	<p>(1-1) (14-1)</p> <p>(6-1)</p> <p>(6-1)</p> <p>(1-1) (12-2)</p> <p>(1-1)</p>	<p>【課題1】・5月に岡山県高校理科部会総会の理学部での開催を復活させ、その中で高校理科教員・教育委員会と理学部教員の意見交換の場を設けた。また、1月に50周年記念館で開催された岡山県理科課題研究発表会に理学部教員が講評審査の講師として参加した。臨海実験所では、JSTグローバルサイエンスキャンパスROOTプログラム(神戸大学・兵庫県立大学・関西学院大学・甲南大学)にも協力し、関西の高校生の研究指導や、高校生マリンチャレンジプログラム2023中国・四国大会審査にも貢献した。</p> <p>【課題2】・高専生の研究インターンシップで新規3プログラムに計5名を受入れ実施した。</p> <p>【課題3】・2つの公開講座「惑星地球のダイナミクス—岩石学と地震学の挑戦—」と「動かない植物の生き残り戦略—最先端の植物科学を知ろう」を開講。ホームカミング日に講演会「パルス強磁場を岡山大に」(オンライン併用)を開催した。</p> <p>【課題4】・附属臨海実験所では、基盤研究(S)や特電委託グループ研究の連続獲得も基にした、地域のDNA資源データを学会の講演等で発信し、環境アセス/建設コンサルとの産学連携でも提供している。神経行動内分泌に関する共同研究を(山田養蜂場と継続した。(株)ハイドロヴィーナス(岡山大発ベンチャー)に参画し、自律高空帆走発電、潮流発電の影響等の評価を開始した。関電工/東電HDと大型共同研究に発展している。</p> <p>【課題5】・附属臨海実験所に瀬戸内市の臨海多様性プロジェクトリーダーが常駐する体制を構築し、近海のプラスチック調査を進めた。</p>
④管理運営領域		
管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等		
<p>【課題1】女性教員割合(現状12.5%)の増加傾向の維持 ・教員採用人事(WTTと特任を含む)で複数名の女性教員採用を目指すとともに、理学部男女共同参画推進委員会において、女性教員割合(上位職登用を含む)向上のための行動計画を策定する。</p> <p>【課題2】若手教員割合(現状19.4%)の増加傾向の維持 ・採用人事(特任を含む)で3名以上の若手教員採用を目指す。</p> <p>【課題3】理学部内のインナーブランディング向上のための学部内交流の企画増加 ・オンライン実施の理学部教授会・協議会の前に「理学部研究交流セミナー」(各学科の教員による研究紹介のミニ講演会)を5回以上、FD研修会を2回以上実施する。</p> <p>【課題4】臨海実験所の全学センター化を目指した海洋科学に関する全学的な教育研究の組織体制構築 ・体制構築に必要な教員(特任を含む)の採用人事2件を進めるとともに、グローバルエンゲージメントオフィスの国際拠点として、ブルーカーボン関連等の研究で国際連携を強化するため、ソルボンヌ大学ロスコフ部門長を招聘する。また、学内外の海洋科学関連研究者との共同研究拠点強化のため施設改修整備を進める。</p>	<p>2. 2)①</p> <p>(9-2)</p> <p>(11-2) (3-1)</p> <p>(1-2) (8-1)</p>	<p>【課題1】・WTT助教と特任助教(臨海実験所戦略的経費)で女性教員2名採用。 ・「岡山大学の女性教員登用に関する目標と計画」を受け、1月の理学系人事委員会(理学部男女共同参画推進委員会と構成員が同じ)において、女性教員割合と上位職登用の向上のための行動計画を策定した。</p> <p>【課題2】・今年度進めた承継教員4件とWTT教員1件の人事のすべてで若手教員を採用。</p> <p>【課題3】・全教員対象で「理学部研究交流セミナー」5回、FD研修会5回(研究インテグリティ、全学教職課程、男女共同参画、研究費コンプライアンス、大学院共通科目)を実施。</p> <p>【課題4】・附属臨海実験所は、①教授(若手、文部科学省 ナショナルバイオリソースプロジェクト 中核的拠点整備プログラム「ゲノム情報等整備」)と特任助教(女性、若手)を新規採用した。初「ゼロ・エネルギー・ビル」化を含む全面改修も開始し、産学連携ラボ・地域連携ラボ等も設ける。②岡山大学の国際研究拠点(継続)に加え、カーボンニュートラル研究拠点にも選定され、特電委託グループ研究の連続獲得も基に、ブルーカーボンのDX研究/工・教育学部との共同といった全学的な研究体制構築を進めた。③ロスコフ部門長招聘のワークショップや公開講演会も実施した。Earth BioGenome Project や世界トップの調査船を擁する Tara Océan との連携も継続した。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。